



第 16 号 平成 30 年 10 月
発行 番町小学校同窓会
〒 102-0085 千代田区六番町 8
東京都千代田区立番町小学校内
TEL 080-3012-1001 FAX (03)3263-3731
郵便振替口座 00160-7-352085
編集 番町小学校同窓会事務局
印刷 株式会社 精興社

会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、同窓会にご支援ご協力いただき深く感謝申し上げます。

さて、今年(2021年)は明治元年(1868年)から数えて満150年にあたり、NHKで“西郷どん”が放送され、様々な趣向のイベントが各地で催されています。そして明治4年(1871年)に創立された母校、番町小学校も2021年、創立150周年を迎えます。昨年就任した豊島会長の方針の第一として『創立150周年の準備と記念式典の挙行』がありました。これに向けて会長よりご挨拶させていただきます。

ご挨拶

同窓会会長 豊島 快兒

番町小学校同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと心よりお慶び申し上げます。また、日頃より母校の発展並びに同窓会活動に対しまして、格別のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

私は、昨年5月に開催されました同窓会幹事会におきまして、前会長 岩瀬裕全先輩(昭和36年度卒業)より番町小学校同窓会会長を引き継ぐことになりました豊島快兒(昭和41年度卒業)です。

今年(2021年)は明治元年(1868年)から数えて、明治151年(内閣府によれば、満150年となる)にあたり、明治4年創立の我が番町小学校は2021年に150周年という大きな節目を迎えます。番町小学校は創立以来あまたの卒業生を輩出し、同窓生は各界で活躍して数多くの実績を残しています。

振り返って歴史を眺めれば、戦後間もない昭和26年(1951年)の創立80周年には、まだ戦禍の残る校舎に昭和天皇をお迎えし、講堂が完成した昭和36年(1961年)の創立90周年には、皇太子・皇太子妃両殿下(現今上天皇・皇后両陛下)を、さらに現校舎が完成した昭和47年(1972年)の創立100周年という大きな節目には再び昭和天皇・皇后両陛下をお迎えしました。そして昭和56年(1981年)の創立110周年には皇太子・皇太子妃両殿下(今上天皇・皇后両陛下)を、平成3年(1991年)の創立120周年には皇太子殿下をお迎えして創立記念式典が挙行されました。

これら長い期間に、数次にも及ぶ天皇・皇后両陛下、皇太子・皇太子妃両殿下の創立記念式典へのご臨席を仰げたのは、偏に番町小学校の歴史、伝統、学業への評価でもありますが、それだけでなしえたものではありません。戦前、戦後の長きに渡り、同窓会会長を務められた故山地三平氏(昭和6年度卒業)の個人的な知己、そして絶大なる行動力にあったことを是非とも皆様を知っていただきたいと思います。

創立120周年式典の直後に、千代田区が発表しました公共施設適正配置構想(小学校、中学校の統廃合、公共施設の新規建設など)により大きな混乱を招き、更には前出の山地三平氏がこの時期に亡くな



られたこともあって、創立130周年記念行事は中断となりました。その後、同窓生、当時の小学校の先生方、在校生の保護者（愛育会）や地域の皆さまのご理解ご協力をいただき、周年行事として創立135周年式典を復活、挙行することができました。その2年後、まったく偶然の好機に恵まれ、宮内庁の担当者とお話をすることができました。その際、宮内庁に保管されている番町小学校に関わる全ての記録を確認した上で、逆に「なぜ、創立130周年式典にはお声掛けを頂けなかったのですか？」と聞かれ、説明に窮したものです。しかしそれがきっかけとなり、中断していた周年行事は、皇太子殿下をお迎えして平成23年（2011年）、創立140周年記念式典を20年ぶりに挙行することができたのです。

来年5月には皇太子殿下が即位され、新たな年号が制定されます。番町小学校同窓会と致しましても、きたるべき創立150周年記念式典が恙なく挙行できるよう、本年度中に創立記念事業協賛会の準備会を立ち上げ、来年度早々には皆様に協賛会へのご協力をお願いするお知らせをお送りできるよう、準備をすすめております。皆さまにおかれましては、番町小学校の歴史と伝統の継承、そして未来への更なる繁栄にご支援ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

同窓会の活動

☆番町子ども会

「番町子ども会」は愛育会を中心にして、地域の町会や愛児会、小学校・幼稚園、学校と縁の深い団体が参加して行われます。そして、子どもたちにとっては夏の最後の“お祭”です。同窓会は、毎年「駄菓子」屋さんで参加していますが、点数が書かれた手作りの木製ルーレットを回して、針が指した点数と同じ個数の駄菓子がもらえるという非常にシンプルな仕組みで、小さなお子さんも楽しめます。

平成30年度は、9月8日（土）に開催されました。ここ数年、愛育会のお父さんお母さんが大きな段ボール5～6個分の駄菓子を並べてくれますが、担当は午前中には講堂に集合して打ち合わせをし、最後の準備をしていきます。

猛暑の続きという天候でしたが、開会と同時にブースには次々と子どもたちがやってきます。まだ机の上の駄菓子を覗くのもやっとという小さなお子さんが、一所懸命ルーレットを回したりお菓子を選んだりする様子は微笑ましく、高学年の子どもたちが高い点数を出して盛り上がっているところからも笑顔になります。今年度の子ども会も、過去最高の参加者を記録したとのこと。終了後の反省会では、子どもたちからのメッセージボード写真が手渡され、可愛らしい文字で書かれた感謝の言葉に、1日の疲れも癒されました。

（担当 小高香織）



繋ぎ 紡ぐ 番町のために

番町小学校校長 浅岡寿郎

今年4月、第28代番町小学校長として着任し、早いもので2学期を迎えました。番町小学校長として、初めて門の前に立ったとき、校長会や研究発表会等で幾度か訪れた番町小学校ではありましたが、すべてが初めて出会ったような緊張感と身の引き締まる思いになりました。番町小学校の佇まいから溢れる風格や威厳、数々の歴史や本校を巣立った博学多才な諸先輩方、熱意と愛情と一体感に満ちた同窓会の皆様、番町小学校が番町小学校である所以を、日を追うごとに感じ、学んでいる毎日です。

平成30年4月6日の始業式では、新たに20名の転入生を迎え入れて、全校児童403名でスタートし、子どもたちの笑顔と活気溢れる教職員と共に、一つ一つ、番町小学校の教育の歩みを重ねております。

そのようななか、「山王祭」の年という幸運に恵まれ、着任早々に日本を代表する天下祭を子どもたちと共に味わい、地域の皆様への仲間入りをさせていただくことができました。山車を曳き、各町の神輿を勇ましく担ぐ子どもたちを、地域や保護者の方が一生懸命に盛り立てている様子に、町会・地域の心意気が伝わってきたと同時に、同窓生の皆様が歩んでこられた番町の歴史を垣間見たひと時でした。

これまでの番町小学校同窓会会報の同期会・クラス会報告を拝見しますと、番町小学校で共に学んだ仲間との旧交を温め、素敵な思い出話に花が咲いている様子が、文面狭しと書き綴られています。成長した教え子の姿、様々な分野での活躍、懐かしい話を聞ける同期会やクラス会は、まさしく教師冥利に尽きる特別な時間だと常々思っています。番町小学校が育てきた人と人を繋ぎ、和を紡ぐ教育を現職の私たちがしっかりと受け継ぎ、いつの時代であっても、ここ番町小学校が故郷であることを子どもたちに伝えてまいりたいと思います。

私は、学校とは常に地域と共にあり、学校を支えてこられた先人の努力と業績によって今があることを忘れてはならないことを理念として、これまでも学校経営にあたってまいりました。これからの番町小学校の歴史の1ページに、現職の私たち教職員が関われる喜びと責任を胸に刻み、さらなる発展に邁進してまいります。番町小学校同窓会をはじめ関係の皆様、何卒よろしくお願い申し上げます。



同窓生訪問 第4回

千代田区内の小中学校で活躍中



番町小学校運動会 2018.10.6



リレー終了の合図 野崎哲弘先生
(平成2年度卒 番町小学校教諭)



教室で授業中 日野原彰人先生
(平成4年度卒 富士見小学校教諭)

番町小学校の周辺は、音楽に溢れていた

新井巖（元同窓会会長 昭和30年度・六番町町会長）

ご高承のように、現在番町小学校には校歌が二つあり、入学式や卒業式などの行事には必ず2曲が続けて演奏される。明治30年代に制定された「我らがかざせる」（正式の名称はない）の作詞は、成蹊学園を創設した中村春二（明治21年頃尋常科卒）の父で、歌人の中村秋香。作曲は、滝廉太郎の師でもあった小山作之助（『夏は来ぬ』などを作曲）である。平成になって作られた「輝いて今日は」は、昭和10年度卒の作曲家 中田喜直の作曲であることはよく知られている。



中村秋香
（近代名士の面影 第1集）国立国会図書館 HP より

竹久夢二の詩「宵待草」を作曲した多^{おのただすけ} 忠亮は、明治39年の卒業生。音楽関係では、大正8年卒のシャンソン・バレエの研究家であった蘆原^{あしばら} 英了、下ってはフォークシンガーの山本コータロー（昭和35年卒）など。もちろん、ここでお名前を挙げなかった多くの音楽家の方々もおられるが、番町の長い歴史のわりには意外に少ない感じがするのは、筆者だけだろうか。

とはいえ、この番町周辺は、西洋音楽の受容の歴史を刻む多くの人物がいたことを忘れてはならない。

麹町小学校卒業の滝廉太郎（1879-1903）は、従兄の滝大吉宅に寄宿して、現在、記念碑が建っている一番町の近辺で4箇所も転居している。まさに廉太郎の音楽の基礎は番町で育ったと言ってよい。彼はこの番町から東京音楽学校（現・東京藝術大学音楽学部）へ通っていた（のちに本郷へ転居）が、その学校で教えていたのが、幸田露伴の妹の幸田^{のぶ} 延（1870-1946）である。彼女は当時のお雇い音楽教師から、ピアノ、ヴァイオリン、声楽、作曲などを学

んだ。その妹の幸^{こう}（後に結婚して安藤幸 1878-1963）もまたヴァイオリン、ピアノなどを学んだ。ともにヨーロッパ、アメリカに留学し、まったく西洋音楽の土壌のなかった日本へその礎を築いた姉妹である。卒業すると、すぐに同校の教師となって後進の指導に当たった。姉の延は、音楽学校の教職を離れた後は、紀尾井町の自宅に住み、妹の幸は四番町に住んでいた。この音楽学校の卒業生で、のちに世界的なプリマドンナとなる三浦環（1884-1946）も四番町に長く住んでいた。また彼女の後輩で『夕鶴』を初演したオペラ歌手原信子（1893-1979）も、二番町に住んでいた。

日本の西洋音楽を普及させた功労者としては、まず作曲家の山田耕筰（1886-1965）が挙げられるが、彼もまた一番町の英国大使館の裏あたりに住んでいたことがある。この山田ともに日本のオーケストラ活動を推進したのが、近衛秀麿（1898-1973）である。彼は、近衛家の次男として麹町5丁目の桜木邸で生まれた。いち早く海外に留学し、戦前にはベルリン・フィルなどの一流オーケストラで指揮をとっている。その彼の誘いで、ヨーロッパへ留学したのが、チェリスト・指揮者で、のちに桐朋学園音楽学部を創設した斎藤秀雄（一番町に在住 1902-74）だ。斎藤は、子供の時から音楽を身につけさせるべく、戦後の焼け跡の中で東京家政大学（三番町）の教室を借りて「子供のための音楽教室」を開設した。これが、桐朋の前身である。ここから、世界的な指揮者の小澤征爾やチェリスト堤剛、ピアニスト中村紘子などが輩出した。まさに、明治の西洋音楽黎明期から大正・昭和の揺籃期を経て、日本の音楽家が世界に羽ばたくに至る現代まで、一貫して西洋音楽受容の歴史を担ってきたのが、この番町周辺であった。



小山作之助
創立130周年記念誌より

（敬称略）

番町小学校の音楽教育と卒業生

西岡芳文（副会長 昭和44年度）

半世紀以前の話になりますが、筆者が番町に入学したのは東京オリンピックの1964年でした。その頃の音楽の専科は徳富繁という老先生で、サトウハチローの「もずが枯れ木で」を作曲された方だと聞きました。徳富先生が奏でるエレクトーンの響きは、当時の新入生には、この世にこんな妙なる音があるのかと思わせたものです。卒業したのは大阪万博のあった1970年でしたが、その頃の音楽は岩上廣志先生が担当しておられました。創立百周年のさまざまな



岩上廣志先生（2012年頃）

ページントは、この先生の労作でした。音楽の授業のやり方もユニークなら、岩上先生率いる器楽部は学校の花形でもありました。90才をこえた今もお元気なのは嬉しいことです。昭和から平成の替わり目に音楽を担当されていたのが橋本研先生で、この先生の時代にB J B（番町ジュニアバンド）が発足し、今に続いています。

番町の音楽教育は熱心な先生によって支えられ、卒業生から有名な音楽家が数多く出ています。古くは創立記念日の歌を作曲した多忠亮（明治39年度卒）。この方は「宵待草」の作者として知られていますが、古代から続く雅楽の家の出身で、同窓生名簿にも同じ名字の方が数多く見られます。宮内庁楽部に属する一家だったのでしょう。

平成の校歌を作曲された中田喜直（昭和10年度卒）は「雪のふる町を」「めだかの学校」「小さい秋見つけた」などの唱歌で知られています。亡くなる前年に番町の新校歌を依頼され、披露式典で若い後輩たちの合唱を感慨深くご覧になっていました。

戦後の卒業生には、アメリカで活躍するジャズ・ベーシストの中村照夫（昭和29年度卒）、「岬めぐり」で知られる歌手のヤマモトコウタロー（昭和35年度卒）、古典箏曲生田流の米川敏子（昭和37年度卒）など、多彩な分野で活躍している方々がいます。



多忠亮

世界的に活躍している卒業生がいるのも頼もしいことです。

（敬称略）



徳富繁先生
創立90周年記念誌より



橋本研先生
同窓会会報第10号より

昭和から平成に移る頃、日本経済が絶頂に達した時期に一世を風靡したフュージョンミュージックの分野で、カシオペアなどで活動したベーシストの櫻井哲夫（昭和44年度卒）、T-SQUAREのキーボードの和泉宏隆（昭和45年度卒）という巨匠が卒業生であったことも特筆されるでしょう。筆者は櫻井さんとは小学校から大学までずっと同窓だったのですが、最近のコンサートには昔の担任の先生や同期生の顔も見え、その一角はミニ同窓会のようになっています。クラシック音楽の方面で活躍している卒業生はプロ・セミプロ含めて数多くおられますが、平成生まれの世代で、フルートの新村理々愛（平成18年度卒）など、



中田喜直
創立130周年記念誌より

～ 同期会・クラス会報告 ～

還暦祝賀同期会

幹事 柳田知子（旧姓 阿部）

番町小 98 会（第 98 回卒業生の会・S45 年度卒）は 2018 年 4 月 22 日（日）午後、ルポール麹町にて還暦祝賀同期会を行いました。大変お天気に恵まれ、岩上廣志先生、島田稔先生のご臨席のもと、実行委員も力を合わせ、50 名ほどの盛会となりました。世界的に活躍しているテノール歌手の K 君のステージも感動を呼び、大変なごやかで楽しいひとときとなりました。



昭和 40 年に入学した私達も、今年度皆 60 歳となり様々な節目を迎えています。健康面や体力においても、段々と肩の荷を減らして、自分らしい生き方を選択していくことが必要になってきています。

当時のご担任は島田先生お一人となりましたが、島田先生は卒業文集を手にはほかの先生方の当時のお言葉を読み上げて下さいました。また岩上先生には、力強いリードで「校歌」と「行けや友よ」を指揮して頂きました。温かい先生方のお気持ちに応えるためにも、皆、健康に気を付けて、朗らかに 60 代を歩んでいって欲しいと願っています。

クラス会兼新年会

幹事 蔵田隆之

昭和 43 年度（1968）卒 1 組はニュージーランド在住者の来日・滞在を機会に、2018 年 1 月 5 日（金）の晩、新年会を兼ねたクラス会を新宿で開催しました。前回は一昨年 12 月の休日昼、還暦を祝って 10 名で開催しましたが、今回は平日の晩に開催したところ、約半数の出席者が入れ替わり、ほぼ同人数の 12 名が出席しました。

定年退職、第二の人生、自身の健康、生きがい、子どもの進学、卒業、就職、結婚、孫の誕生等々の話題が尽きない 2 時間半でした。クラス会運営にも SNS を活用すべく、クラス会の翌日早速、Facebook に「千代田区立番町小学校 96 期 6 年 1 組」というグループを設定しました。定年退職後の生きがいの一つとして、SNS の各種機能を活用し、お互いの近況報告をしながら、様々な曜日・時間帯で今後もクラス会を開催してまいりたいと思っております。



梅組クラス会

幹事 小林萬寿夫、二之宮景光

2017 年 4 月 8 日（土）、昭和 14 年度梅組クラス会を新宿小田急百貨店 12 階の『翠園』にて開催しました。出席は小沢君、中田君、小林、二之宮に加え、遙々岡山から高階君、田辺君。卒業以来の重田君も加わり、昨年より 1 名減の 7 名ながら、卒寿の世代としては元気な集いとなりました。

重田君のほか高階君とも卒業以来で、二人を中心にクラス会は盛り上がりました。5 年間の歌の勉強を卒業したばかりの高階君による昔の唱歌や卒業曲の披露に始まり、重田君の医師としての修業時代の苦労話や奥様との馴れ初め話に沸きました。担任の先生方の思い出や 2.26 事件当日の体験なども、皆よく覚えているものです。また、最近の日本を取り巻く米国、中国、北朝鮮の状況などの国際情勢に関心があり、意見が飛び交いましたが、当日欠席だった大鷹君の専門家としての意見が望まれるところです。

2018 年も 5 月に同じ場所でのクラス会を開催しましたが、今後については結論がでず、決定を持ち越しました。クラス会開催の有無にかかわらずお互いの連携は繋がっておりますが、親交を続けたいものです。諸兄のご健勝を祈ります。

～ 同期会・クラス会報告 ～

同期会開催報告

昭和 28 年度卒同期会の今年の世界役一同

4 年前の会報に仲間が報告を投稿しましたが、今年（2018 年）も 6 月 23 日（土）昼に小尾昭先生に出席いただき、開催しました。結果として、米寿の今も小学校の理科教育の発展に尽力されている恩師を喜寿の生徒がお祝いする形になりましたが、どなたが恩師なのか見間違えるほどお元気な先生が、椅子から離れられない、かつて？の悪童たちの席を回って談笑されました。

さて今回は、私たちの期の省力化同期会の開催の実例を書きます。

基本情報：卒業時は 3 クラス編成で、約 150 名。旅立った友、連絡先不明の友、今は連絡不要という友を除いた 64 名に、開催 1 カ月前に往復はがきで通知。出席者数は、数人代わるものこの数年 30 名程度。

世話役の選任：会の場で次回世話役各クラス 2 名を互選。来年は各クラス 1 名で試行。

会場、開催日時：原則として土地勘のある小学校近くの会場。今年は、試みに今回の世話役が次回の会場、日時を仮予約し、会の際出席者に諮って決定する形として、次回の会場を確保すると共に、メンバーへ早期予告。

世話役の会合：メール、電話を活用することとし、会って話し合うのは 2 回。

1. 選任された会の終了直後／前回世話役からの名簿、繰越金を引継ぎ、名簿の更新・開催通知作成・発送担当（今年は S さん、世話役の要）、当日の進行など事務担当を決定
2. 会当日の 1 時間前集合／会費集金、司会・進行などの担当の確認、実行

当日準備した品：データ更新後の名簿、返信ハガキ——回覧用。N さん作成のパンフ「私たちはこんな時代に生きていた～小学校時代の世情」——当時の記憶が蘇り、好評でした。

以上、私たちの期が高齢・恒例である利点を多く含んでいますが、ご参考まで。

なお、初めて開催する際の難作業は名簿作り。個人情報管理を厳しく求められる昨今ですが、一定要件を備えれば、同窓会事務局の支援・協力を得られるのではないかと思います。

4 年生当時、創立 80 周年式典に参列できた私たちにとって、3 年後の創立 150 周年記念行事への参加は一里塚、さらにその先も、縁あった仲間との歓談を楽しみたいと思っています。



【ベルマークについて】

☆ベルマーク収集にご協力下さった同窓生の皆様、有難うございました。

工藤純さん、土岐和子さん、藤田祥平さん、藤本貴也さん、丸山洋子さん、小高香織さん

☆今後もベルマークを収集し、愛育会に協力していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

送料はご寄付頂ければ幸いです。

〒102-0085 千代田区六番町8 千代田区立番町小学校内 番町小学校同窓会事務局ベルマーク係

◎同窓会 U-20（平成 21 年度卒業～平成 30 年度卒業予定の会員の方）

○日時：2019 年 3 月 24 日（日）13：30～ ○場所：番町小学校小学校講堂・校庭

※ご案内は 2 月頃、該当の学年の方にお送り致します。

小学生時代の“楽しみ”が基になって

原田麻樹（平成4年度卒）



「小学校の頃の思い出といえば、当時流行った『ドロ警』遊び。校庭がとても広くて校外で遊ぶより安全だったこともあり、放課後はいつも学内で遊んでいました。塾に通う子も多かったので、宿題がなかったんですよ。」と、懐かしみながら語る原田さん。「その中でも、毎週楽しみにしていたのが部活動です。私は物を作ることが好きだったので、手芸部に所属してから色々なものを夢中で作っていました。先生の監督の元、電動糸のこで木材を切断したり、海外の民芸品にあるような賑やかなお面を掘ってみたりと、とにかく自由でした。ほかにもジュニアバンドに入って朝練に参加するなど、なかなか忙しい

日々でしたが、色々体験できる番町小に通うことが出来てよかったと思っています。」

小さい頃からの“楽しみ”が花開き、今では劇場の衣装係として16年間従事しているそうです。「衣装係の仕事は、舞台上踊る演者さんの着替えを手伝ったり、破れた衣裳を綺麗に修復したりするのが主な仕事です。激しいダンスもあるので意外と簡単に破れたりして（笑）。でも、幼少期の手芸部としての経験があってこそだと思っています。」輝かしい笑顔で語る原田さん、衣裳を縫うという仕事に誇りを持たれているのでしょうか。

「そして続けて良かったことと言えば、番町小で海洋少年団の募集を見かけて入団したことです。“しつけは訓練の基本”という教えと、団体生活を通して道徳心が養われるという歴史ある団に所属できて、今思えば貴重な時間を過ごせたと思っています。」と語る原田さん。

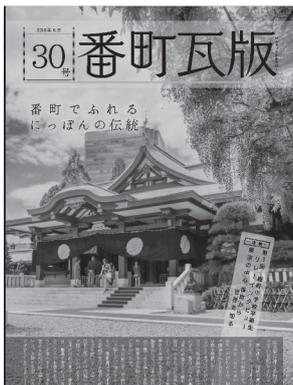
「私は小学生時代から成人まで続けましたが、前号インタビューの中村さん（平成11年度卒 富士見小学校理科講師）は現在も、教官の一人として頑張っているんですよ。」苦楽を共にして仲間として、今でも連絡を取り合っているそうです。現在は仕事で忙しい毎日ですが、時間があれば番町小に立ち寄り、思いを馳せるそう。そして安



仕事場にて

心して暮らせるこの町にいつか戻ってこられたら…という夢もあるそうです。

（番町瓦版第29号「番町小学校卒業生リレーインタビュー 第6回」より）



◀番町瓦版…日本テレビ通り振興会が隔月に発行するフリーペーパー。番町麴町地域の駅や公共施設等を中心に約3,500部を設置配布。JR市ヶ谷駅、東京メトロ麴町駅、市ヶ谷駅、半蔵門駅、四ツ谷駅等、千代田区麴町出張所、四番町図書館等